

## 「資格到達目標達成度評価制度」に関する意向調査の回答結果

(参考)会員校数 187校

### 【調査結果の概要】

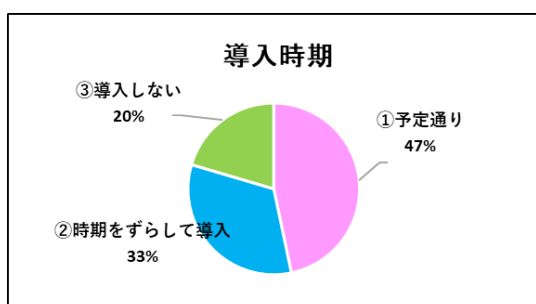
「資格到達目標達成度評価制度に関する意向調査」を会員校対象に行った結果、137件の回答があり、以下の結果が得られた。

回答件数全体の約80%(109件)が資格到達目標達成度評価制度の導入の意向を示し、導入の時期については、予定通りは47%(64件)であり、時期をずらして導入が33%(45件)となっている。学生の自己評価についても約80%(101件)が実施するとの意向を示し、協会標準型での実施は60%(76件)、大学独自型での実施は20%(25件)の結果であった。

これらの結果から、資格到達目標達成度評価制度については、導入に賛同(約80%)が得られたと考えられる。ただし、導入時期についてはずらしての導入希望(33%)がある点、配慮が必要と考えられる。

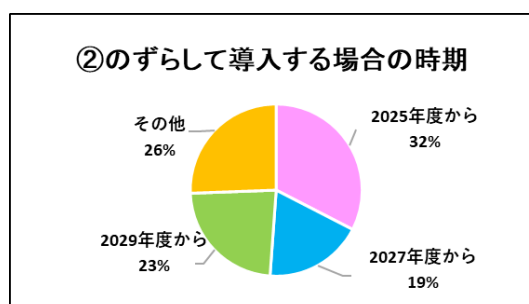
### 【各調査項目別の回答結果】

#### 1. 資格到達目標達成度評価の導入時期について



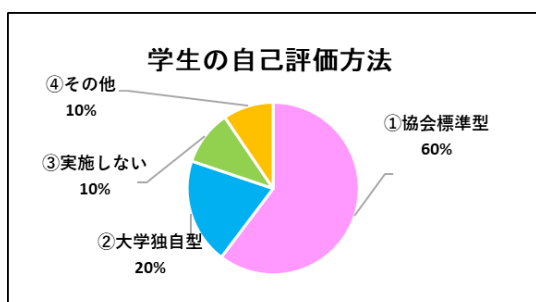
①予定通り	64
②時期をずらして導入	45
③導入しない	28

※③の導入しない内、10件は、閉校、閉学、資格廃止等



2025年度から	14
2027年度から	8
2029年度から	10
その他	11

#### 2. 資格の質保証のために行う資格教育課程の学生自己評価方法について



①協会標準型	76
②大学独自型	25
③実施しない	13
④その他	12

※③の実施しないとする理由は以下の通り

- 1) 学生の自己評価は必要ではあるが、評価結果は実際と異なるため参考程度でよい (3件)
- 2) 独自の方法で到達度を見ているため必要ない (3件)
- 3) 質保証に自己評価の持つ意義を検討中である (3件)
- 4) 資格教育課程の設定が未定である (4件)

### 3. 「資格到達目標達成度評価制度」に関する提言概要について

自由記述による記載内容は、以下の3つに大別され、それぞれの意見はその下のように分類された。

1) 本評価制度を評価し、賛成する(22件)。ただし、うち5件は以下の付帯条件あり。

- ① 評価において、分かりやすく、シンプルにするなどの対応をお願いしたい(2件)
- ② 評価する大学が工夫を要する(1件)
- ③ 学生評価はよいが教員評価は困難(1件)
- ④ コロナの影響で先が読めない(1件)

2) 本評価制度に原則的には賛成しながら、付帯条件に積極的な意見あり(10件)。

- ① 加重とならない提案(ファイル提出、学生の転記を止める、無理のない、極力シンプルに)(7件)
- ② 前向きな提案(先行活用事例を参考にしたい、社会ニーズに応じた適宜アップデートが必要、認定証と共に評価項目の一覧から学んだことを知りたい)(3件)

3) 本評価制度に異議あり(4件)。

- ① 学生の自己評価は指標にならない(客観性に欠く、信頼できない、コロナ禍で一貫性を欠く可能性あり)(3件)
- ② 学生・教職員に過度の負担となる(1件)

なお、1)2)は、いずれも本評価制度に賛成する意見であり、合計件数は32件(89%)。付帯条件は検討すべき貴重な意見であるが、基本的には協会の考え方と相違ないものであった。

一方、賛成しないとする4件(11%)は、「本評価制度に意義が認められない」として否定するものであった。

資格改革事業特別委員会 委員 (敬称略)

委員長 城島 栄一郎 (本協会理事・実践女子大学 学長)

副委員長 山下 恵子 (本協会理事・宮崎国際大学 理事長・学長)

委員/ワーキングチームメンバー 福永 俊哉 (京都女子大学 准教授)

ワーキングチームリーダー 山本 耕司 (四国大学 教授)

ワーキングチームメンバー 今井 さやか (相模女子大学 准教授)